

令和5年度 青梅市立新町中学校 学校評価シート									
＜学校経営方針の重点＞ 自分と人類の幸福創造する人材の育成の視点（Agency 教育【OECD LearningCompass2030】）に立って新町中教育目標に迫る。							●評価基準 90％以上達成 A、 70％以上達成 B、 50％以上達成 C、 50％未満 D とする。 ●自己評価方法 ※保護者及び生徒アンケートも加味し、評価する。（教員50％、保護者25％、生徒25％）		
1 進んで学ぼう 2 美しい心を育てよう 3 たくましい体をつくろう（未来を拓こう）									
項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校関係者 評価記入欄		学校の見解と今後の方向性
							評価	コメント	
進んで学ぼう	Agency 教育に基づく自主的・対話的で深い学びの実現	【学習指導力の向上】授業改善でなく授業改革を進める。失敗を恐れず日本の課題克服に挑戦する。	①青梅市校内研究指定校として、研究を推進し、教科部会・学年会・管理職授業観察等での協議を深め、研究主題「Agency・AAR サイクルをもとにした自主的・対話的で深い学びの授業追究～OECD 学びの羅針盤 2030 の提唱より～」を実現する。	B 75%	教員の評価は厳しく「よくできた」が0％であった。次いで保護者では「大変満足である」が12.6％、生徒では「できた」が55.6％で、生徒の評価が一番高かった。教員の方では左記の校内研究について一進一退の様子がうかがえる。	令和5年度末に行った校内研究推進での評価分析・改善の方向性を活かし、引き続きOECDが目指すAgency・AAR サイクルを生かした授業改革を推進し、その成果が得られるよう研究を継続する。	B	○生徒達が自ら考える授業、大変良いと思います。教員の評価は厳しいかもしれませんが、継続していただきたい。 ○教員と生徒の間には開きがあるが、将来に向けて重要と考えられる ○理解度別にクラス分けをし、しっかりと学習してほしい。なぜ勉強するのかを考えられる様になってほしい。 ○『OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030 仮訳』をネットで検索し確認したがコンセプトや方針レベルであり全体像の理解が難しい。具体的な方策に関する数値目標（計画／実績）があると良い。 ○Agency 教育の実現は、一朝一夕には難しい。まさに日々のAARの地道な積み重ねが重要だと考えるので、今後の更なる進展に期待している。 ○授業公開で生徒のタブレット使用はよく見かけるが、中には授業とは関係のないゲーム等をしている生徒もいる。義務教育ではタブレット使用・入力よりも書く力を身に付ける方が大事ではないかと。	Agency 教育の具現化を校内研究を通して授業で図る。確かな学力を身に付けるために、従来通り書くこと、そしてタブレット等の利活用のベストバランスを追求する。
			②ICTの活用：電子黒板、タブレットパソコン等の使用の日常化を図る。（受験5教科は週2回以上、実技教科週1回以上）	B 80.0%	生徒評価では「できた」(MAX)が64.0％で、前年度比で15.8ポイント改善し、ギガスクール構想が浸透してきている。	日常化の継続を行うとともに、個別最適な学習及び協働的な学習への活用力・指導力を高めていく。	B	○タブレットもかなり浸透してきました。不登校生徒等にも十分活用してもらいたい。 ○今後はますます重要になるがゲームもできてしまうことは問題。 ○学校授業での電子黒板、タブレット利用は日常化が図られてきているが、学校外（自宅等）におけるスマホ等利用により、勉強や宿題の時間が短いとの報道がある。タブレットの自宅持ち帰りは、自宅での勉強・宿題に利用する時間を増やすための方策になるかもしれない。しかし、逆に書くことが減るのには疑義がある。 ○最近のDXの動向も踏まえて、積極的に取り組んでいる。	学力向上のためICT利活用の日常化を学校内外で推進していくが、目的外使用は規制する。
			③自主的家庭学習を生徒に課し、受験5教科で、毎授業ごとに授業ノートまとめ＋興味・発展調べを行わせ、全体を捉える学力を身に付けさせる。	C 65.0%	教員の評価は厳しく「よくできた」、「できた」を合わせると52.1％に留まった。令和5年度の新規事業だったが、保護者の意見（身に付いてない等）を踏まえ、実施方法の在り方を再検討する必要がある。	授業ノートまとめは継続する一方、興味・関心は希望者のみにするなど改善を図る。また、タブレット等の活用も検討し、生徒がより自主的に取り組める仕掛けを工夫する。	C	○新規事業との事、これからの期待したい。 ○生徒に課したノートについては教員がしっかり目を通すことが必要であろう。 ○テスト2週間前、部活動休み期間を学校で学習する機会を作ってみてはどうか。（放課後など） ○学習の習慣化が難しいことは十分承知している。 ○授業を整理するためにも、授業ノートまとめは必要である。その上で理解できなかった項目をネット等で調べて当日中に理解する。毎日行えば、実力はかなり向上する。授業中で理解できなかったことは先生に質問して当日中に解決するのが前提。 ○昨年から青梅市の学習支援サポートで中学生を担当している。数学などは授業が分からない → 復習や自習もできない → ますます嫌いになる、といった負のスパイラルに陥っている生徒も多いと推察する。やはり、基本の振り返りと「わかる」喜びを如何に実感してもらうかが重要である。 ○自主的家庭学習であっても楽しさが追究できるような内容にしてほしい。そうでないと同学習に期待できない。	習熟度の違う生徒に一律的な課題提供は問題がある。生徒の興味・関心に関する同学習は選択制とする。分かる授業、楽しい同学習となるよう工夫していく。
美しい心を育てよう	Agency 教育に基づきVUCA&Diversity&&Inclusion 時代に生きる力を育成する。		④Agencyを引き出す校則の見直し、生徒の参画、保護者の理解を得て服装等に関する校則を改定する。（第Ⅱ期）	B 72.5%	肯定的な評価を合わせると生徒は80.9％で教員、保護者よりも関心が高い。12月生徒総会で、標準服改定の議決もされ、実行段階に入った。	昨年度に引き続き、校則の改定が進んだ。生徒指導提要（文科省R4.12）を踏まえ、今後も定期的な見直しを位置付ける。	B	○生徒が主体となって校則を見直す。とても良いことだと思います。今の時代に合った校則になればと思う。 ○生徒主体で進めることは良いと思うが教員、保護者の考えも聞く必要がある。 ○学習面でも心の面でも小学校との連携が必要である。 ○生徒参画による校則改定で服装等の改定が実行段階に入ったことは評価できる。今後も定期的な校則の見直しをお願いする。 ○校則改定に向けた生徒たちの取り組みは十分だったと思う。	生徒の自治能力・参画意欲を引き出すために定期的な校則見直しを位置付ける。
			⑤いじめ・暴力・自死ゼロを目指し、命や環境の大切さを実感する教育を推進する。（ボランティア活動、セーフティ教室、生徒会いじめゼロ運動、生命尊重等をテーマにした道徳授業地区公開講座、修復的対話講習会等の実施）	B 80.0%	肯定的な評価を合わせると3者共に80％台を超えている。しかし「できた」(MAX)言い切る生徒は50％近くいる一方、保護者・教員は30％未満となっており、ギャップが認められる。大人の目から見て、その発生している実態等に憂慮していると思われる。	左記の具体的な方策は令和6年度でも継続した上で、道徳授業地区公開講座のテーマは「生命尊重」、「いじめの防止」を隔年で実施し、その効果を高めて行く。ボランティア活動は地域の貢献の比重を高めていく。	B	○とても大切で重要なテーマで保護者も一緒に考えてもらいたい。 ○いじめ等の問題の解決が非常に難しい点が多いと思われるが、解決において後退してはいけない。 ○学習面でも心の面でも小学校との連携が必要である。 ○私もセーフティ教室に参加し、青梅警察署から参考になるお話を伺うことができた。毎年、継続して実施していただくことを期待している。新型コロナウイルス感染症も5類感染症に移行し、ボランティア活動も徐々に元に戻ってきた。地域住民とのふれあいの場でもあり、積極的なボランティア活動を期待している。 ○第九支会の盆踊りや避難訓練、文化祭などの各種行事に、多くの生徒たちがボランティアとして参加していただき、非常に感謝している。今後ともよろしく願いたい。	令和5年度 の取組を継続した上で、道徳授業地区公開講座のテーマは「生命尊重」、「いじめの防止」を隔年で実施し、その効果を高めて行く。ボランティア活動は地域貢献の比重を高めていく。
			⑥長期欠席生徒に対し、年間シートに基づく支援を行う。1週間1回の家庭訪問、学習支援及び社会的陶冶の視点を重視する。不登校担当教員の配置とその連携を図る。	B 77.5%	教員の評価は厳しく肯定的な評価は69.7％、このうち「よくできた」が21.7％である。増加傾向にある不登校等生徒に歯止めがかからず、危機感を覚えていることがうかがえる。	次年度も不登校加配教員が配置される見込みで、引き続き、その活用を継続する。また、オンライン授業や別室支援等も継続させ、当該生徒、保護者のニーズに基づく支援を行う。	B	○不登校の問題は難しく教員もフリースクールの方の話を聞いていただきたい。大人の理解がなければ外には出てこない。タブレットを使い、無理に学校に来なくても、課題をやることで出席扱いにする等、柔軟な対応をお願いしたい。 ○学習面でも心の面でも小学校との連携必要。 ○長期欠席等については家庭や本人等の問題もありむずかしい問題であるが、解決に向け努力してほしい。 ○本人の問題や家庭等の事情もあり不登校生徒に対する支援は課題である。不登校になった要因が少しでも分かれば対応策を考えることができるが、本人やその家族と面会できないケースは手の打ちようがない。家族は不登校生徒の将来を少しでも考えてあげてほしいと考える。 ○コロナ禍の影響により不登校や中高生の自殺が増加、との報道などもあったので、今後、個別の事案ごとのきめ細かな対応をお願いする。	個別の事案ごとに引き続き、対応する。また、オンライン授業や別室支援等も継続させ、当該生徒、保護者のニーズに基づく支援を行う。
			⑦生徒の不安や期待を受け止め支援したり、生活指導等において生徒の意見表明権を保障したりする場を日常化する。	B 80.0%	「思う」と言い切る生徒割合が過半数（56.9％）を超える一方、保護者の見方は厳しく16.0％に留まる。教員も23.9％と低い。	保護者の願いを受け止め、教員の実践を高めていく必要がある。特に、保護者とのコミュニケーションを意図していく。	B	○教員と保護者とのコミュニケーションは大切である。また生徒は学校の先生ではない大人とのふれあいがあると良いと思う。（地域ボランティアもその1つ） ○思春期の時期でもあり、生徒に寄り添うことが必要であろう。 ○学習面でも心の面でも小学校との連携が必要である。 ○生徒の意見を尊重し、生徒が先生に気軽に相談できる先生と生徒との環境作りが大切だと思う。 ○PTAの皆さんや生徒たちが相談しやすい環境や雰囲気作りに配慮をお願いする。 ○生徒、保護者と教員との関係性の、一層の充実をお願いしたい。	生徒や保護者のお気持ちやお考えに寄り添いながら合意形成が得られるよう努力する。
たくましい体をつくろう（未来を拓こう）	自分と皆の幸福を創造する。		⑧青梅学を通して理想とする青梅を探究することにより幸福な日本・世界を創造する。	B 77.5%	「できた」と言い切る割合は生徒56.6％、教員65.2％で両者共に比較的良好である。特に教員で前年比17.2ポイント改善した。	次年度も継続し、青梅学を通じての日本人としてのアイデンティティを育成する。	B	○青梅学は良いと思う。新町地区の歴史等を授業にできれば良い。 ○生まれ育った地域の良さを知ることには非常に重要と思われる。 ○在学中の子供を見ている限り良いと思う。 ○多摩川の上流域で東京都の中では自然が豊かな青梅市。まずは自分が住む青梅市の良いところを理解し日本、世界にはおぼたけ新町中学生になることを期待する。 ○私も青梅に住んで30年余りになるが、意外と青梅の歴史や来歴はよく知らない。青梅の古刹や新町御嶽神社などを巡って、その由来などを理解することも重要である。	青梅校外学習等を継続し、青梅学を通じての日本人としてのアイデンティティを育成する。
			⑨自治能力と責任を高める学校行事（運動会、合唱コンクール、宿泊行事、校外学習）、生徒会活動等を行う。	B 82.5%	「できた」と言い切る生徒割合は78.7％前年比で26.4％も改善した。コロナが終息し、生徒が活躍している様子がうかがえる。	次年度も継続し、生徒の自治能力と責任感を高めていく学校行事等を行う。	B	○運動会等（体育委員会）生徒で運営していく。数年前より取り組まれているが、かなりできていると思う。 ○今後も継続的に推進を願う。 ○全ての学校行事に対し、生徒たちは真剣に取り組んでいる所がすばらしいと思う。 ○在学中の子供を見ている限り良いと思う。 ○素晴らしい合唱コンクールを聞かせていただいた。学校生活を通じて、一つの仕事に責任をもってやり遂げることは自信になり、充実感を得ることで生活のモチベーションに繋がったりポジティブな気持ちになったりします。ぜひ、生徒の自治能力形成に向けたご指導をこれからもお願いする。	次年度も継続し、生徒の自治能力と責任感を高めていく学校行事等を行う。
			⑩9年間を見通したキャリア教育、小中一貫教育の推進（職場体験、小6中学校体験授業を含む）	B 75.0%	「できた」と言い切る生徒の割合は69.5％で、教員は著しく低い。小中一貫教育がその影響を与えている。	特に2年生で進路学習をより反映する必要がある。小中一貫教育は課題解決に迫る方策を検討する。	B	○やはり勉強の面で難しいと思う。中1ギャップは精神的なものも含めて、対応する必要がある。 ○在学中の子供を見ている限り良いと思う。 ○将来の小中一貫教育も視野に入れる必要がある。 ○小中一貫教育は小学校の学習で定着しなかった内容を中学校で補うことができたり、不登校の減少につながる可能性もある。小中と9年間子どもを見続けている先生がいるので子どもも安心できるメリットはあるが、小学校と中学校の節目がなくなり気持ちの切り替えや進学する充実感が子どもたちになくなるデメリットもある。 ○既に対処されていることと思うが、数学など基礎からの積み上げが重要な科目については、新町小学校などと連携して振り返り学習ができるような環境、体制整備をお願いする。	左記改善策を推進していく上で数学の課題は大きいので、小中連携図る上で焦点化を模索する。

